



良質な入浴ケア実施への取り組み

～マンパワー確保と入浴業務の見直しを行って～

医療法人財団利定会 大久野病院 2F 介護療養病棟

【目的】

療養病床では一人ひとりに合った良質なケアと療養環境の提供が求められている。

入浴は血液の循環改善や身体の清潔保持に効果的であるとともに、心身の緊張をほぐしリラックスを得られる効果があるとされている。しかし、限られたマンパワー下における入浴は時間の限界があり、当院では一人あたりの入浴時間を5分前後しか確保できない状況にあった。また、安全の観点から入浴を中止せざるを得ない場合や、入浴ケアに付随する超過勤務の発生もあった。この度、入浴ケアの質を改善するために、マンパワー確保と業務の見直しを行ったので、その経過を報告する。

【方法】

- 1) 日中のマンパワー確保の為、介護者の夜勤と日勤の配置数を見直し
- 2) 入浴の業務量調査
- 3) 入浴実施時間（方法）の見直し
- 4) 入浴に関する業務工程の見直し

【結果】

- 1) 夜勤体制変更により介護者のマンパワーを日中に移行できた。
- 2) 入浴ケアを中止することはなくなった。
- 3) 効率的かつゆとりある入浴ケアの提供が可能になった。
- 4) 入浴ケアに付随する超過勤務は減少した。

【考察】

入浴は清潔保持効果だけではなく、心身のリラックスや楽しみを感じられる内容であることが望まれる。そのようなケアを実践するためには、実施可能な環境を整えることが必要である。この度の業務見直しの結果から、限られたマンパワーの中でゆとりある良質な入浴ケアを提供するためには、入浴介助の業務の見直しと効率化が有効と考える。今後も、患者にとって良質な入浴であるかを振り返りケアの改善に取り込みたい。